

平成27年度

事業報告書

自 平成27年 4月 1日

至 平成28年 3月31日

公益財団法人日本室内楽振興財団

はじめに

まず2017年（平成29年）に開催される第9回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」の基本コンセプトを策定し各委員などの委嘱をしました。今年の3月15日には、参加者募集の記者発表を行い、国内外の音楽雑誌への広告掲載やホームページのリニューアルに伴い、開催予告や参加団体の募集開始の告知を掲載しました。

グランプリ・コンサートは、第8回「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」第2部門の優勝団体「トリオ・ラファール」（ピアノ三重奏）をスイスから招聘し、全国12地区で公演しました。

また、室内楽の演奏活動及び教育普及活動に対する助成事業や広報誌の発行、調査研究事業では報告書を発刊しました。

(4) 審査方法

室内楽に造詣の深い一流の音楽家で、若手演奏家への育成に情熱を持っている音楽家
13名を審査委員に委嘱し、審査をして頂きます。

f. フェスタ部門の実施内容

(1) 演奏部門と賞金

部 門	編 成	賞 金
フェスタ	2人以上6人以下の編成で、 楽器の組み合わせは自由	メニューイン金賞 200万円 銀 賞 100万円 銅 賞 60万円 フォークロア特別賞 30万円



(第8回優勝のダス・クライネ・ヴィーン・トリオ) (第7回優勝のトリオ「国境なきクラシック」)

(2) 応募資格

年齢、国籍を問いません。

(3) 演奏曲

自由（課題曲は定めません）。但し、演奏時間は30分以内とします。

(4) 審査方法

一般公募の中から選んだ予選・本選の審査員各々約100名の投票により審査を行います。

g. 披露演奏会の実施

表彰式翌日の5月22日(月)、各部門上位3団体が出場する演奏会をいずみホールで、
またその翌日には、コンクール両部門で優勝した団体の演奏会を東京で実施します。

h. その他

(1) 旅費・宿泊費の支援

海外からの参加者の経済的負担を軽くするため、コンクール参加者には、往復のチケット（エコノミークラス）を提供し、フェスタ参加者には15万円（アジアから参加の場合は、その半額）を補助します。また宿泊代は、従来同様主催者が負担します。
遠隔地からの国内参加者についても交通費の一部補助及び宿泊代の負担を行います。

(2) 参加団体数

コンクール部門は22団体を、フェスタ部門は18団体を予定しています。

(3) 募集締切

コンクール部門、フェスタ部門ともに2016年10月20日締切とします。

2. 第9回コンクール&フェスタの主な改正点

a. 第1部門

参加団体のレベルが毎回向上していること、課題曲に相応しい弦楽四重奏曲が多いことから、今回初めて3次予選を加えることとしました。6団体が3次予選に出場の予定ですが、各団体に1時間の演奏時間を与え、西村朗の弦楽四重奏曲『シェーシャ』（演奏時間約15分）と残りの時間（約45分）を団体の自由選択としました。1次・2次・3次・本選と全体のプログラムの中でどの曲を3次予選に加えるかがポイントになります。

b. 第2部門

数多くある管楽器のアンサンブルの中で比較的多くの団体が活動している木管五重奏、サクソフォン四重奏、金管五重奏の3ジャンルに絞り、一つの部門として運営します。今回も、各楽器で世界的に活躍されている奏者に審査委員に就任していただくことができました。

c. フェスタ

従来は、予選2日間20数団体の全演奏終了後に審査をし、8団体を選出していましたが、今回は各日3団体（合計6団体）を選出することとします。また本選は、2団体毎に審査し、勝ち抜いた3団体で優勝を競うこととします。

3. コンクール課題曲の決定

第1部門の課題曲は、事務局作成の原案をもとに、国内外の審査委員に昨年8月にご意見を求めました。一部の作曲家の曲については、追加や削除の相矛盾するご意見があったため、最終的には堤審査委員長に調整していただき、11月の審議委員会で決定しました。第2部門の課題曲は、参考となる管楽器のコンクールが少ないため、管楽器ご専門の方々による「プログラム検討委員会」を立ち上げ、課題曲の原案を作成いたしました。更に海外の審査委員にもご意見をお聞きし、11月の審議委員会で決定しました。

4. 募集要項及び申込書の作成

開催要項及び課題曲の決定を受けて、募集要項及び申込書を、和文・英文・仏文で作成しました。

5. ホームページの更新

新たな募集要項と申込書のデータを加え、更にタブレットやスマートフォンでも見やすいようなレイアウトのホームページを作成し、3月15日（火）に立ち上げました。

6. 募集開始記者発表の実施

3月15日(火)にホテルグランヴィア大阪で、東京・大阪の音楽関係の新聞雑誌記者を招き、開催記者発表を行いました。開催要項、コンクール審査委員、課題曲等を発表しました。

7. 参加団体募集の広告開始

国内海外の音楽関係の雑誌(Strad, BBC Music, Gramophone 等)への掲載、国内外マスメディアを通して募集する他、ホームページで広く参加団体の募集を開始しました。

第9回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ日程別開催内容

2017年(平成29年)

日 時	第1部門	第2部門	フェスタ	審査委員
5月11日(木)	(参加者来日)			(審査委員来日)
12日(金)		(参加者来日)		審査委員会議 歓迎パーティー
13日(土)	1次予選			
14日(日)		1次予選		
15日(月)	2次予選			
16日(火)		2次予選	(参加者A来日)	
17日(水)	3次予選		(参加者B来日)	
18日(木)			予選(A)	
19日(金)			予選(B)	
20日(土)	本選	本選		
21日(日)	表彰式	表彰式	本選・表彰式	記念パーティー
22日(月)	披露演奏会	披露演奏会	披露演奏会	記者発表
23日(火)	(東京)披露 演奏会	(東京)披露 演奏会		(審査委員帰国)

公 1

(2) 室内楽の演奏会の開催

2015（平成 27）年 1 月 1 日～1 月 22 日は以下の事業を実施しました。

1. 「グランプリコンサート 2015」の開催

昨年は、第 8 回「大阪国際室内楽コンクール」第 2 部門で優勝した「トリオ・ラファール」（スイス）を招いて国内 12 会場で実施しました。

大阪・メルボルンなど数々のコンクールで輝かしい結果を残した「トリオ・ラファール」の演奏を聴いたお客様は、彼らの力強くありながら繊細で奥深い、心に響く美しい演奏に感動されていました。同トリオも又、充実した各地のホールと、各主催者のいき届いた配慮に驚き、感謝を述べ、帰国の途につきました。入場者数は、12 公演で 3741 名となりました。

2. 出演：「トリオ・ラファール」（スイス）



公演日程

月日／曜日	公演名	会場
11月 1日 (日)	熊 本	益城町文化会館
11月 3日 (祝)	三 重	三重県文化会館 小ホール
11月 5日 (木)	広 島	庄原市民会館
11月 8日 (日)	京 都	京都市立京都堀川音楽高校 音楽ホール
11月 9日 (月)	山 陰	ビッグハート出雲 白のホール
11月11日 (水)	大 分	別府大学大分キャンパス 文化ホール
11月13日 (金)	札 幌	STVホール
11月15日 (日)	青 森	青森公立大学 講堂
11月16日 (月)	大 阪	いずみホール
11月18日 (水)	高 岡	高岡文化ホール
11月20日 (金)	静 岡	静岡市清水文化会館マリナート
11月22日 (日)	東 京	よみうり大手町ホール

全国協賛：大和ハウス工業株式会社

トヨタ自動車株式会社

全国助成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

全国協力：野村証券株式会社

サカエ・シュトゥンツィ基金

全国後援：在日スイス大使館

公 2

(3) 室内楽に関する各種活動への助成

2015（平成 27）年度は以下の事業を実施しました

2015（平成 27）年度は、選考委員会での助成金交付事業決定後に、申請内容と異なる内容での事業の開催に対し交付決定取消しとなり、結果以下の事業に助成金を交付しました。

	事業名	申請者	開催地
1	シヨスタコーヴィチの自画像Ⅱ、Ⅲ	古典四重奏団 田崎 端博	東京・埼玉 近江楽堂・松明堂
2	室内楽の夕べ ヤヌス弦楽四重奏団&中埜ユリコ	中埜 ユリコ	兵庫 西宮プレラホール
3	Reine Pur 第9回「トリオ」	東京ーウィーン弦楽三重奏団 平野 玲音	東京 トッパンホール
4	ルートヴィヒ・チェンバー・プレイヤーズ演奏会	ルートヴィヒ・チェンバープレイヤーズ 日本公演実行委員会広瀬公美子	東京 紀尾井ホール
5	Ensemble ZAZA 2015 コンサート	ながらの座・座 橋本 敏子	滋賀 ながらの座・座
6	いわき室内楽協会コンサート 2015 / 2016	いわき室内楽協会 九里 孝雄	福島 いわき 室内楽文化交流館

公 3

(4) 広報誌の発行に関する事業

2015（平成 27）年度は、以下のとおり広報誌「奏」を刊行しました。

- ・「奏」43号 4月27日発行
- ・「奏」44号 10月26日発行

音楽業界、学校、財団関連企業等に各号2,000部ずつ配布しました。

公 3

(5) 調査研究に関する事業

2015（平成 27）年度は、以下の事業を実施しました。

年度中3回の調査研究事業委員会を開催、2013年と2014年の室内楽演奏会の実施状況に関する調査の精査を行い、2016年度内に調査報告書第3版を発行する準備段階の作業を行いました。